



うまい・きれい かほく米づくり運動では10の技術の実践を推進しています。
どれだけ実践できているか、チェックしてみましょう！

推進技術		目標	チェック
1	播種量（うす播きの励行）	・1箱当たり乾もみ120gの播種は実施できましたか。（太植による過剰生育の抑制）	
2	育苗日数（健苗の育成）	・播種から田植えまで 1か月以内 の育苗日数が守れましたか。（初期生育の確保）	
3	植付本数（3～4本植えの励行）	・1株当たり3～4本の植付本数を守りましょう。（適正茎数の確保）	
4	適正な栽植密度 （優良茎の確保）	・1坪当たり60株の栽植密度が確保できましたか。 （適正茎数の確保・乳白粒対策）	
5	適正な施肥 （栄養凋落防止と登熟向上）	・生育に応じた施肥ができていますか。 ・生育状況に応じた追加穂肥の実施をしましょう。	
6	田植え時期（早植えの防止）	・5月田植えを実施できましたか。（過剰生育の防止）	
7	中干し・溝切り （遅発分げつの抑制）	・田植え 1か月後 からの実施（過剰生育防止） ・中干し期間 1か月 （コシヒカリ）の遵守	
8	除草・防除 （畦畔等除草とカメムシ防除の徹底）	・7月上旬までの追加除草 ・水稻の生育ステージにあわせた適期防除の実施	
9	水管理（飽水管理の徹底）	・中干し後から出穂までの約 1か月 （コシヒカリ）の飽水管理 ・出穂から刈取り直前までの 1か月以上 の飽水管理（乳白粒対策、胴割粒防止）	
10	刈取時期（適期刈取りの励行）	・もみの黄化程度に応じた刈取り	

今月のポイント① 浅水管理と田干しで分げつ確保⇒営農の手引き37ページも参照ください

- 浅水管理で地温の上昇を図り、良質な分げつの確保に努めましょう。
- 天気の良い日は落水して田干しをし、根張りをよくしましょう。藻の対策にもなります。
- 低温や強風時には、深水（5cm）管理とし保温に努めましょう。

今月のポイント② 田植え後1か月を目安に中干し、溝切りで過剰生育の抑制！

⇒営農の手引き38ページも参照ください

●中干しの適期実施 → 株の出来すぎストップ → 乳白粒の減少

- ・中干し開始の目安は、目標穂数の70%の茎数が確保された時期です。
遅れないよう中干しを実施しましょう。

中干し開始時期 6月1日～6日

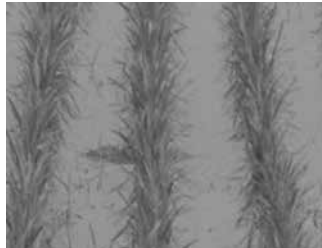
中干し開始本数の目安

・コシヒカリ 14本/株（60株/坪）

・ゆめみづほ 15本/株（60株/坪）

中干しの程度 田面にひびが入る程度

（軽く足跡がつく程度まで行いましょう）



中干し開始適期の生育量
（コシヒカリ）

【中干しの効果】

- ① 窒素の吸収を制限して、過剰生育を防止する。
- ② 土壌中へ酸素を供給して根を健全にする。
- ③ 溝切りと併用することで、収穫時の機械作業が可能な地耐力を確保する。



過剰分げつの抑制、過剰籾数の軽減、根の健全化、倒伏防止



登熟向上、乳白粒の軽減、食味向上

●溝切りで、入水・排水がらくらく！

- ・溝切りは5～6m（20条）間隔に行い、溝はしっかりと排水口につなげましょう。
- ・溝切りを行う際には、3～5日干してから行うと溝がしっかりとつきます。
- ・用水が不足する恐れのある地域では、少ない水を効率良く水田全体に行き渡らせるため、溝切を必ず実施するとともに、本数も多めにしましょう。

「溝切りの作業請負」のご案内

作業請負の期間：6月9日～7月8日 申し込み条件：1地区あたり5ha以上

◎お問い合わせは、JA石川かほく営農部へ（☎288-7555）



裏面に続きます

初期分げつを促すために浅水管理を徹底しよう！

中干し開始の目安は田植え後1か月！！ 6月1日頃から始めましょう！！

良品質米の生産のため、珪酸加里プレミアを施用しましょう！

農薬・除草剤を散布した後は栽培履歴記録簿に記入しよう！

今月のポイント③ 本田および本田周辺の除草⇨営農の手引き23～24ページも参照ください

●本田の後発雑草対策

○ノビエの取りこぼしが多いとき《ヒエ剤》

薬剤名	使用時期	使用量 10a 当たり	本剤の 使用回数	使用方法
ヒエクリーン豆つぶ (1 キロ粒剤あり)	移植後15日～ノビエ4 葉期 (但し、収穫45日前まで)	250g	1 回	湛水散布
クリンチャー 1 キロ粒剤	移植後7日～ノビエ4 葉期 (但し、収穫30日前まで)	1 kg	2 回以内	
	移植後25日～ノビエ5 葉期 (但し、収穫30日前まで)	1.5kg		
トドメMF1キロ粒剤	移植後14日～ノビエ5葉期 (但し、収穫50日前まで)	1 kg	3 回以内	

○広葉雑草の取りこぼしが多いとき《広葉剤》

薬剤名	使用時期	使用量 10a当たり	本剤の 使用回数	使用方法
バサグラン粒剤	移植後15日～収穫45日前まで	3～4kg	1回	落水散布または、ごく 浅く湛水して散布

○ノビエ・広葉雑草とも混在するとき《ヒエ剤＋広葉剤》

薬剤名	使用時期	使用量 10a当たり	本剤の 使用回数	使用方法
アトトリ豆つぶ250 (1キロ粒剤あり)	移植後14日～ノビエ4葉期 (但し、収穫45日前まで)	250g	1回	湛水散布
ツイゲキ1キロ粒剤	移植後14日～ノビエ4葉期 (但し、収穫60日前まで)	1kg	1回	
ワイドショット 1キロ粒剤	移植後15日～ノビエ4葉期 (但し、収穫45日前まで)	1kg	1回	

○イボクサ、クサネムが残ってしまったとき

薬剤名	使用時期	使用量 10a当たり	本剤の 使用回数	使用方法
ノミニー液剤	移植後30日～クサネムの草丈40cmまで (但し、収穫60日前まで) 移植後30日～イボクサの茎長30cmまで (但し、収穫60日前まで)	50～100ml 希釈水量 100ℓ	1回	落水散布または、ごく 浅く湛水して散布
ロイヤント乳剤	移植後20日～ノビエ5葉期 (但し、収穫45日前まで) ※クサネムの草丈70cmまで ※イボクサの茎長60cmまで	200ml 希釈水量 100ℓ	2回以内	

●農道および畦畔の除草⇨営農の手引き19～20ページも参照ください

- ・水田周辺の斑点米カメムシの発生密度を下げるため、草刈りまたは除草剤で除草に努めましょう。
- ・今年も越冬したカメムシが多数いるものと想定されますので畦畔除草が重要になります。
- ・6月は「一斉除草月間」です。農道や畦畔の除草を行いましょう。

今月のポイント④ 珪酸加里プレミアの施用で良質米生産！⇨営農の手引き39ページも参照ください

- 稲体を強くし、根の活力が向上します。
- 施用時期 6月中～下旬、施用量 30kg/10a
- けい酸パワーコシー発くん施用の圃場には珪酸加里プレミアを施用する必要はありません。

今月のポイント⑤ いもち病の予防

- 補植苗はいもち病の発生源になるので早急に処分してください。

イナゴの発生が目立つ場合は随時防除

- トレボン粒剤（2～3kg/10a、使用回数3回以内）を散布しましょう。

石川かほく米トータルコスト低減運動実施中

	項目	具体的なコスト低減の要因	概算低減率
1	移植時同時施肥・施薬機種の導入	施肥・施薬作業の軽減による作業効率の向上	施肥・施薬作業効率80%
2	豆つぶ・ジャンボ・フロアブル・FG除草剤の導入	省力剤の導入による作業の省力化	施薬作業効率40%
3	流し込み追肥・導入	機械散布や手散布が不要で施肥時間の大幅短縮	追肥作業効率80%